

矢作川流域圏懇談会通信

R2 海部会編 vol. 4



発行日：令和3年1月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第12回海部会まとめの会を開催しました！

12月15日（火）に第12回海部会まとめの会を新型コロナウイルス対策を徹底した上で開催しました。今回は、令和2年度の活動成果を振り返るとともに、次年度に向けた目標（活動計画）について話し合いました。また、吉田漁協の石川組合長より、西三河のノリ漁場栄養塩調査結果についてご報告いただきました。

日時：令和2年12月15日（火） 14:00～16:30

場所：西尾市役所会議棟2階 第4会議室

参加人数：18名 ＊事務局を含む



◆主な活動内容

1 今年度のふりかえりについて

今年度は、3回のWGを実施し、設定した3つの課題について、以下の活動を行いました。

◆ごみの問題

- 西尾市佐久島を訪問し、漂着ゴミの現状やごみ問題の啓発について、現地視察と意見交換を行いました。
- 伊勢湾・三河湾におけるマイクロプラスチックの現状について、情報共有を行いました。

◆豊かな海の再生に向けた取り組み

- 矢作川浄化センターにおける窒素・リンなどの今年度の計測結果と、アサリ・ノリの現状について、情報共有を行いました。
- 佐久島の鳥類の生息状況と環境変化について、情報共有を行いました。

◆海と人の絆の再生

- 市民部会が進めているバスツアーについて、矢作川浄化センターと吉田海岸の視察内容を計画しました。
- 西尾市佐久島の自然科学を取り込んだアート作品などを視察し、三河湾と河川域に住む市民と、島との交流手法などについて、情報共有を行いました。

2 次年度に向けた目標（活動計画）について

これまでの活動成果や課題をふまえ、次年度の目標を設定し、話し合いを行いました。話し合いで出た主な意見や提案は以下の通りです。

- ・ ごみの問題、栄養塩の問題、土砂の問題など、海が抱えている最新の情報・課題を共有する。
- ・ 三河湾における、アサリ・ノリなどの生物資源や「豊かな海」を再生させるための具体的な取り組みを進める。
- ・ 豊かな海の再生に向けた取り組みに目を向けつつ、多面的・長期的に考えながら、陸域との関係も視野に入れる。
- ・ 矢作川の恵みを楽しんでいることの認識を、流域で共有する。
- ・ 海の課題や海部会の取り組みなどについて、外部に発信する。

3 話題提供：ノリ漁場における栄養塩調査結果について

吉田漁協の石川組合長から、今年出荷されたノリのサンプルと出荷明細書を回覧いただき、良いノリと悪いノリについてご説明いただきました。また、矢作川・矢作古川・矢崎川の河口付近の窒素・リン・クロロフィルaの測定結果から、ノリの生育にとって適正な濃度とその現状について、ご説明いただきました。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●今年度のふりかえり・次年度に向けた目標(活動計画)設定について

- ちょうど流域圏懇談会が設立 10 年を迎えたので、何か新しいことに取り組むのもよいかと思う。(青木)
- マイクロプラスチックで最も被害を受けるのは、海なので、海部会としての取り組みが大事だと思う。また、下水の放流水の問題は、環境基準や法律などを変えていく必要もあり、今後の海部会の仕事でもあると思う。(近藤)
- ノリの状況などから、海が再び良くない方向に進んでいるような気がしている。もう一度原点に戻り、検討していくことも必要かと思う。(東幡豆漁協 石川)
- 海を見ていると、川も多様性が損なわれてきているのではないかと危惧される。(近藤)
- 矢作川の恵みを享受している山・川・海の流域全体の人全員と、課題解決に向け総合的に考えていかなければならない。(高橋)
 - ▶ 土砂の問題は、山と川がつながっているというテーマであり、重要な問題だと思う。市民も含め、認識を共有していきたい。(青木)
 - ▶ アサリの餌として珪藻がよいとも言われている。珪藻の生育に必要なケイ素は、森林土壌から湧水となって流出する。山から川を通じて、海に出てくるケイ素についても、考えていく必要がある。(井上)
 - ▶ 自然の状況は、非常に複雑な要因で変化する。長期的に考えると、干潟だけではなく、陸上域の湿地帯も栄養塩のストッカーとして重要だと思う。(石田)
- 山から出る栄養塩や砂が、川を通じて海まで来てくれればよいのだが、ダムなどで止められる。川に起因する湧水や伏流水も昔に比べるとかなり少なくなった。どこから解決していくかは難しいが、大きな問題である。(高橋)
 - ▶ まずは、今どういう不都合があり、その原因が何かを認識する必要がある。そして、それは人の手で変えられるのかどうかを考えていくことが重要だ。(石田)
 - ▶ 豊田のまちは、矢作川や矢作ダムにより市民生活や産業が成り立っている。川の代わりに土砂を運ぶなど、いろいろなことをしなければならない時代になってきたと思う。市民と認識を共有することが重要だと思う。(高橋)
 - ▶ 国土交通省では、適正な土砂の管理を進めるため、総合土砂管理計画の策定を進めている。土砂を下流まで流して海まで到達させるため、流域一環、水系一環で取り組んでいる。利水・治水・環境がお互いに Win-Win-Win の関係になるよう、試行錯誤しながら進めているところである。(事務局)
- 三河湾の深掘跡の硫化水素の問題について、青潮の問題もあまり聞かれなくなった。これも三河湾が貧栄養になったことに関係があると思う。(井上)
 - ▶ 深掘跡はほとんど埋め立てが終わっているが、埋め立てた土砂の沈降があり、埋め立て直す計画もある。(青山)
- 海産物がなかなか食べられなくなってきたのも、実は、我々の責任でもあることを知ることが大切かと思う。(高橋)
- ここ 40 年くらいで水の浄化処理は進んでおり、ノリ養殖などで問題視されている。季節に合わせたり、その時の状況に応じたりしながら、浄化処理の程度を変えろといった考え方を導入していくのもよいと思う。(石田)
- 「認識の周知」について。メディアの力を利用するのもよいと思う。来年度の目標として取り組みたい。(金田)
- 最も外部発信力があるのが、海である。流域外にどうやって広げるか。鍵になるのは次世代と都市だと思う。(近藤)
 - ▶ ごみの問題など、「海と人の絆」という観点では、広報が重要だと思う。(青木)
- 栄養塩や土砂など、海の問題の原点にもう一度目を向け、見直してみるのもよい。「豊かな海の再生に向けた取り組み」を軸にしつつ、陸域との関わりをみていくことが海部会としてよいテーマかと思う。(青木)

●のり漁場における栄養塩調査結果について

- 矢作川浄化センターからの窒素の増量放流を今年やってほしいというのが、漁民の願いだ。(吉田漁協 石川)
- 矢作川流域の農業が様変わりしており、耕作による栄養分が河川から出てこない。豊かな海にするため、どういうふうに漁場に栄養補給していくかを緊急に考える必要がある。(吉田漁協 石川)
- 西三河のノリは、矢作川が栄養を運んでくれるおかげで味がよい。このまま、良い漁場を後世につないでいきたいという気持ちでがんばっている。(吉田漁協 石川)
- 河口で窒素・リンが豊富にあるにもかかわらず、プランクトンがまったく発生しない理由を、今後の流域圏懇談会でとりあげていただきたい。(吉田漁協 石川)
 - ▶ 窒素制限というのがあり、栄養のバランスは生物が決める。窒素が少ないと植物は減る。プランクトンの体を作っている窒素、リン、鉄、シリカのバランスを判断するモノサシが重要だと思う。(井上)

今後の流域圏懇談会の予定

■第 10 回全体会議

日時：令和 3 年 2 月 19 日(金) 13:30~15:30

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 佐藤、専門官 竹下、技官 中村
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8129

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijnet.or.jp)までお送りください。

